



南葵音楽文庫ミニレクチャー

日本オルガン界の泰斗

木岡英三郎

～南葵音楽事業部評議員・主任オルガニスト時代～

林 淑 姫

南葵音楽文庫

和歌山県立図書館内

和歌山市西高松 1-7-38

tel.073-436-9500

2019 年 11 月 8 日（金） 18：15

南葵音楽文庫閲覧室（和歌山県立図書館内）



木岡英三郎
(1895－1982)



愛用のオルガン

(オランダ・フェルシュレーン社製)

徳川頼貞は 1926（大正 15）年、前年に創設された南葵音楽事業部に、その年の 1 月、6 年余にわたる欧米留学から帰国したばかりのオルガニスト木岡英三郎を評議員兼主任オルガニストとして招いた。本格的なオルガン奏者がまだ生まれていなかったその時代、南葵楽堂のパイプオルガン（アボット・スミス社製）は十分に能力を発揮していたとはいいがたく、アメリカ、フランス、ドイツで当代屈指の名オルガニストたちに師事し研鑽を積んだ木岡を得て、頼貞の喜びは一入であったと思われる。南葵楽堂のパイプオルガンは関東大震災後東京に残された 2 台のオルガンのうちのひとつだったが、楽堂自体が損壊し演奏会場として使用することはできなくなっていたこともあって、木岡英三郎の帰国後最初の演奏会は立教大学チャペルで開催された（アメリカ・エスター社製オルガン、1921 年設置）

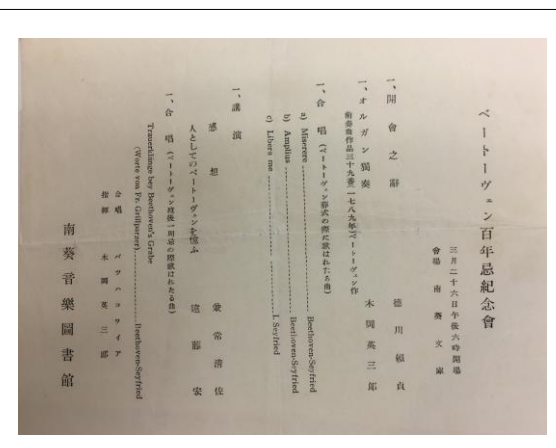
1927（昭和 2）年、ベートーヴェン没後 100 年の命日（3 月 26 日）に、南葵音楽図書館主催により開かれたレクチャー・コンサート「ベートーヴェン百年忌記念会」は木岡の企画によるもので、曲目はベートーヴェンのオルガン曲《プレリュード》（作品 39）と合唱曲で構成、演奏は木岡の独奏と、木岡指揮による混声合唱団「バッハ・コアイア The Bach Choir」によった。合唱曲はベートーヴェンの葬儀と一周忌で歌われた作品という凝った曲目が選定されている。「バッハ・コアイア」は木岡により結成されたばかりの合唱団で、1929 年、木岡の指揮により「ヨハネ受難曲」が初演された際、「バッハ聯合 The Bach Union」の一員として参加している（のち教会合唱団）。こうした木岡の精力的な活動に対して、同じく南葵評議員を務めていた辻莊一も積極的に協力している。

南葵のオルガンは 1928（昭和 3）年、昭和の大礼記念に東京音楽学校に寄贈されたが、その移築には木岡の協力が不可欠であったであろう。木岡はその後東京音楽学校のオルガン教師に就任、以降多くの大学や団体で後進の指導にあたることになる。

次頁に掲げた略年譜から分かるように、オルガニスト木岡英三郎の教会音楽とオルガン音楽の普及、発展に向けられた熱意と精力的な活動は生涯たゆみなく続けられ、日本オルガン界の礎は彼によって築かれた。オルガン音楽に対する確固とした歴史観に基づくその活動は、私たちに畏敬の念を懐かせずにはおかない。

【参考文献】

森田真理子「木岡英三郎一日本におけるオルガン開拓者、その伝記と揺るぎない遺産」『オルガン研究』38 号（2010）
「木岡英三郎－パイプオルガンの巨匠」『明治学院 150 年史 主題編』（明治学院 2014）
赤井勲『オルガンの文化史』（青弓社 1995）



ベートーヴェン百年忌記念会

1927（昭和 2）年 3 月 26 日 於・南葵文庫

ベートーヴェン「前奏曲」

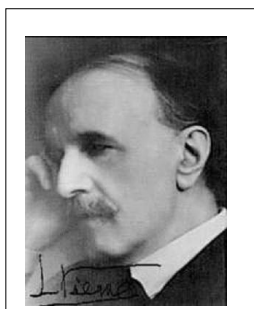
（作品 39）ほか。木岡英三郎、オルガン、指揮、合唱「バッハ・コアイア」

講演 兼常清佐、遠藤宏
南葵音楽図書館主催

パリ時代の師



ヴァンサン・ダンディ
Vincent d'Indy
(1851-1931)



ルイ・ヴィエルヌ
Louis Vierne
(1870-1937)



シャルル・マリ・ヴィドール
Charles-Marie Widor
(1844-1937)

母校・明治学院

日本橋・三越での第1回オルガンリサイタル

1930（昭和5）年11月16日。当日は全パッサ・プロ。次回以降のプログラムの予告もあり、フランク、リスト、ブラームス、サンサーンスと広範囲にわたる。



明治学院チャペル
ヴォーリズ W.M. Vories 設計
1916（大正5）年竣工
*ヴォーリズは南葵楽堂の設計者でもある。
（『明治学院 150 年史』2013 年刊より）



日本橋・三越のパイプオルガン

アメリカ・ウーリッツァ社製シアターオルガン
1930（昭和5）年設置。

p.1・木岡肖像写真のオルガンはこの三越のオルガン。



木岡家蔵
森田真理子「木岡英三郎」より
*参考文献の項参照